

マラキ書

Malachi

旧約聖書

第1章

- 1 宣告。マラキを通してイスラエルに臨んだ主のことば。
- 2 「わたしはあなたがたを愛している。 —主は言われる— しかし、あなたがたは言う。『どのように、あなたは私たちを愛してくださったのですか』と。エサウはヤコブの兄ではなかったか。 —主のことば— しかし、わたしはヤコブを愛した。
- 3 わたしはエサウを憎み、彼の山を荒れ果てた地とし、彼の相続地を荒野のジャッカルのものとした。
- 4 たとえエドムが、『私たちは打ち砕かれたが、廃墟を建て直そう』と言っても、一万軍の主はこう言われる— 彼らが建てても、わたしが壊す。彼らは悪の領地と呼ばれ、主がとこしえに憤りを向ける民と呼ばれる。
- 5 あなたがたの目はこれを見る。そして、あなたがたは言う。『主は、イスラエルの地境を越えて、なお大いなる方だ』と。」
- 6 「子は父を、しもべはその主人を敬う。しかし、もし、わたしが父であるなら、どこに、わたしへの尊敬があるのか。もし、わたしが主人であるなら、どこに、わたしへの恐れがあるのか。 —一万軍の主は言われる— あなたがたのことだ。わたしの名を蔑む祭司たち。しかし、あなたがたは言う。『どのようにして、あなたの名を蔑みましたか』と。
- 7 あなたがたは、わたしの祭壇に汚れたパンを献げていながら、『どのようにして、私たちがあなたを汚しましたか』と言う。『主の食卓は蔑まれてもよい』とあなたがたは思っている。
- 8 あなたがたは 盲目の動物を献げるが、それは悪いことではないのか。足の萎えたものや病気のものやものを献げるのは、悪いことではないのか。さあ、あなたの総督のところにそれを差し出してみよ。彼はあなたを受け入れるだろうか。あなたに好意を示すだろうか。 —一万軍の主は言われる—
- 9 さあ、今度は 神に嘆願したらどうか。『われわれをあわれんでください』と。このことはあなたがたの手によることだ。神があなたがたのうち、だれかを受け入れるだろうか。 —一万軍の主は言われる—
- 10 あなたがたのうちには、扉を閉じて、わたしの祭壇にいたずらに火をともしないようにする人が、一人でもいるであろうか。わたしはあなたがたを喜ばない。 —一万軍の主は言われる— わたしは、あなたがたの手からのささげ物を受け入れない。
- 11 日の昇るところから日の沈むところまで、わたしの名は国々の間で偉大であり、すべての場所で、わたしの名のために きよいささげ物が献げられ、香がたかれる。まことに、国々の間で偉大なのは、わたしの名。 —一万軍の主は言われる—
- 12 しかし、あなたがたは『主の食卓は汚れている。その果実も食物も蔑まれている』と言って、わたしの名を汚している。
- 13 また、『見よ、なんと煩わしいことか』と言って、それに蔑みのことばを吐いている。 —一万軍の主は言われる— あなたがたは、かすめたもの、足の萎えたもの、病気のものを持って来て、ささげ物として献げている。わたしが、それをあなたがたの手から取って、受け入れるだろうか。 —主は言われる—
- 14 自分の群れのうちに雄がいて、これを献げると誓いながら、損傷のあるものを主に献げるような、ずるい者はのろわれる。わたしは大いなる王であり、 —一万軍の主は言われる— わた

しの名は諸国の民の間で 恐れられているからだ。」

第2章

- 1 「祭司たちよ、今、この命令があなたがたに下される。
- 2 もし、あなたがたが聞き入れず、もし、わたしの名に栄光を帰することを心に留めないなら一万軍の主は言われる—わたしは、あなたがたの中にこののろいを送り、あなたがたの祝福をのろいに変える。もう、それをのろいに変えている。あなたがたがこれを心に留めないからだ。
- 3 見よ。わたしは、あなたがたの子孫を責め、あなたがたの顔に糞をまき散らす。あなたがたの祭りの糞を。あなたがたはそれとともに投げ捨てられる。
- 4 このときあなたがたは、わたしがレビとの契約を保つために、あなたがたにこの命令を送ったことを知る。—一万軍の主は言われる—
- 5 わたしの、彼との契約は、いのちと平安であった。わたしはそれらを彼に与えた。それは恐れであったので、彼はわたしを恐れ、わたしの名の前に、おののいた。
- 6 彼の口には真理のみおしえがあり、彼の唇には不正がなかった。平和と公平さのうちに、彼はわたしとともに歩み、多くの者を不義から立ち返らせた。
- 7 祭司の唇は知識を守り、人々は彼の口からみおしえを求める。彼が万軍の主の使いだからだ。
- 8 しかし、あなたがたは道から外れ、多くの者を教えによってつまづかせ、レビとの契約を損なった。—一万軍の主は言われる—
- 9 わたしもまた、あなたがたを、すべての民に蔑まれ、軽んじられる者とする。あなたがたがわたしの道を守らず、えこひいきをしながら教えたからだ。」
- 10 私たちすべてには、唯一の父がいるではないか。唯一の神が、私たちを創造されたではないか。なぜ私たちは、互いに裏切り、私たちの先祖の契約を汚すのか。
- 11 ユダは裏切り、イスラエルとエルサレムの中で 忌まわしいことが行われた。まことにユダは、主が愛された主の聖所を汚し、異国の神の娘をめとった。
- 12 このようなことをする者を、どうか主がヤコブの天幕から 一人残らず断ち切ってくださいように。たとえその者が万軍の主にささげ物を献げても。
- 13 あなたがたはもう一つのことをしている。あなたがたは、涙と悲鳴と嘆きで、主の祭壇をおおっている。主が、もうささげ物を顧みず、あなたがたの手から それを喜んで受け取られないからだ。
- 14 「それはなぜなのか」とあなたがたは言う。それは主が、あなたとあなたの若いときの妻との証人であり、あなたがその妻を裏切ったからだ。彼女はあなたの伴侶であり、あなたの契約の妻であるのに。
- 15 神は人を一体に造られたのではないか。そこには、霊の残りがあつた。その一体の人は何を求めるのか。神の子孫ではないか。あなたがたは、自分の霊に注意せよ。あなたの若いときの妻を裏切ってはならない。
- 16 「妻を憎んで離婚するなら、—イスラエルの神、主は言われる— 暴虐がその者の衣をおおう。一万軍の主は言われる。」あなたがたは自分の霊に注意せよ。裏切ってはならない。
- 17 あなたがたは、自分のことばで主を疲れさせた。あなたがたは言う。「どのようにして、私たちが疲れさせたのか。」それは、あなたがたが「悪を行う者もみな主の目になつてい

る。主は彼らを喜ばれる。いったい、さばきの神はどこにいるのか」と言うことによつてだ。

第3章

- 1 「見よ、わたしはわたしの使いを遣わす。彼は、わたしの前に道を備える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、彼が来る。一万軍の主は言われる。」
- 2 だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立っていられよう。まことに、この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。
- 3 この方は、銀を精錬する者、きよめる者として座に着き、レビの子らをきよめて、金や銀にするように、彼らを純粹にする。彼らは主にとって、義によるささげ物を献げる者となる。
- 4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日々のように、ずっと以前の年々のように主を喜ばせる。
- 5 「わたしは、さばきのためにあなたがたのところに近づく。わたしは、ためらわずに証人となって敵対する。呪術を行う者、姦淫をする者、偽って誓う者、不正な賃金で雇い人を虐げてやもめやみなしごを苦しめる者、寄留者を押しつけてわたしを恐れない者に。一万軍の主は言われる—
- 6 主であるわたしは変わることがない。そのため、ヤコブの子らよ、あなたがたは絶え果てることはない。
- 7 あなたがたの先祖の時代から、あなたがたはわたしの掟を離れ、それを守らなかった。わたしに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたに帰る。一万軍の主は言われる—しかし、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちは帰ろうか』と。
- 8 人は、神のものを盗むことができるだろうか。だが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのものを盗んだでしょうか』と。十分の一と奉納物においてだ。
- 9 あなたがたは、甚だしくのろわれている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民のすべてが盗んでいる。
- 10 十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしを試してみよ。一万軍の主は言われる—わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか。
- 11 わたしはあなたがたのために、食い荒らすものを叱って、あなたがたの大地の実りを滅ぼさないようにし、畑のぶどうの木が不作とならないようにする。一万軍の主は言われる—
- 12 すべての国々は、あなたがたを幸せ者と言うようになる。あなたがたが喜びの地となるからだ。一万軍の主は言われる。
- 13 あなたがたのことは、わたしに対して度を越している。—主は言われる—あなたがたは言う。『私たちが何と言ったというのですか』と。
- 14 あなたがたは言う。『神に仕えるのは無駄だ。神の戒めを守っても、万軍の主の前で悲しんで歩いても、何の得になろう。
- 15 今、私たちは高ぶる者を幸せ者と言おう。悪を行っても栄え、神を試みても罰を免れる』と。」

- 16 そのとき、主を恐れる者たちが互いに語り合った。主は耳を傾けて、これを聞かれた。主を恐れ、主の御名を尊ぶ者たちのために、主の前で記憶の書が記された。
- 17 「彼らは、わたしのものとなる。一万軍の主は言われる— わたしが事を行う日に、わたしの宝となる。人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。
- 18 あなたがたは再び、正しい人と悪しき者、神に仕える者と仕えない者の違いを見るようになる。」

第4章

- 1 「見よ、その日が来る。 かまどのように燃えながら。 その日、すべて高ぶる者、すべて悪を行う者は藁となる。 迫り来るその日は彼らを焼き尽くし、根も枝も残さない。 一万軍の主は言われる—
- 2 しかしあなたがた、わたしの名を恐れる者には、義の太陽が昇る。 その翼に癒やしがある。 あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のように跳ね回る。
- 3 あなたがたはまた、悪者どもを踏みつける。 彼らは、わたしが事を行う日に、あなたがたの足の下で灰となるからだ。 一万軍の主は言われる。
- 4 あなたがたは、わたしのしもべモーセの律法を覚えよ。 それは、ホレブでイスラエル全体のために、わたしが彼に命じた掟と定めである。
- 5 見よ。わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。
- 6 彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。 それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として打ち滅ぼすことのないようにするためである。」